【豊かな体験活動　推進校】

地域の自然・文化・人とかかわる体験学習

阿東町立嘉年小学校

学　校　の　概　要

①　学校規模

○　学級数：３学級
○　児童数：１９人
○　教職員数：１０人
○　活動の対象学年：全学年（１９人）

②　体験活動の観点などからみた学校環境

○　山口県の重要な河川である阿武川源流の水源涵養林「十種ヶ峰」山ろくに位置している。霊山として多くの昔話が語り伝えられている。
○　専業農家をはじめ、農業従事者が多く稲作だけでなく果樹・野菜・畜産など農業が多角化している。
○　辺地であるがゆえに、祖父母の代まで自給自足的な生活が営まれ、その家その家で味噌作りをする等、食文化が伝えられてきた。
○　少子高齢化（60 歳以上の人口は地区の人口の 58%　小学生は 4%）が著しい地域である。

③　連絡先

○　〒759-1601
山口県阿武郡阿東町大字嘉年上 3436
○　電　話：083-958-0004
○　ＦＡＸ：083-958-0084
○　電子メール：kena-es@c-able.ne.jp

体 験 活 動 の 概 要

①　活動のねらい

○　嘉年地域の自然・文化・人々とのふれあいや勤労生産の体験活動を通して、嘉年のよさや協働することの喜びを知り、たくましく生きる子の育成を図る。

●　ふれあいファーム活動
　ア　農業生産に関わる農業技術の体験
　イ　地域住民との温かいふれあい

●　嘉年っ子ファーム活動
　ア　自産自消の食農教育
　イ　ケナフの栽培・収穫から紙すきまでの過程における体験

②　活動内容と教育課程の位置付け

○　ふれあいファーム活動
総合的な学習の時間　30 単位時間
生　活　科　　30 単位時間

○　嘉年っ子ファーム活動
ア　食農教育
総合的な学習の時間　28 単位時間
生　活　科　　28 単位時間
イ　ケナフの栽培・収穫から紙すきまでの過程における体験
総合的学習の時間　　6 単位時間
生　活　科　　6 単位時間
学　級　活　動　　4 単位時間

1　活動に関する学校の全体計画（高学年を例として）

『ふれあいファーム・嘉年っ子ファーム』学習のねらい　高学年

嘉年小学校　学校目標

自分の力で未来をきり拓くことができる、心豊かでたくましい嘉年っ子の育成

めざす児童像

よく考え進んで学習する子	思いやりのある心豊かな子	心身ともにたくましい子

嘉年小学校の総合的な学習の時間の目標

地域の豊かな自然や文化・地域社会から、自ら課題を見出し、学び考え、主体的に問題を解決する活動を通して、地域を愛し、地域に誇りをもつ、知力あふれるたくましい児童を育てる。

嘉年小学校の総合的な学習の時間の基本方針

研究テーマ「活動いっぱい、感動いっぱい、表現いっぱい、挑戦いっぱい」
～繰り返し挑戦する子どもの育成～

○　児童一人ひとりが主体的に課題に取り組めるように、一斉からグループへ、個へと活動を進めていく。
○　地域との連携を図り、地域と密着した活動を進め、人々との心のふれあいを大切にする。
○　学習を進めることで、その体験を生かしてさらに充実した学習内容ができるように進めていく。
○　生活科と総合的な学習の時間との関連を図り、学習経験を生かした学習活動ができるように進め、複式学級という縦の学年を生かした教え合い、学び合いを大切にする。
○　各教科、道徳、特別活動、行事等のすべての教育活動と関連させながら進めていく。
○　農園活動（「ふれあいファーム」「嘉年っ子ファーム」の活動）を活用した勤労生産的な活動を通して、知徳体の総合的な学習に取り組む。

高学年『ふれあいファーム・嘉年っ子ファーム』活動の目標

かしこく（知育）	やさしく（徳育）	たくましく（体育）
各教科で学んだことを総合的に生かし、さらに教科の学習に返すことで、知の総合化を図る。	異学年集団や地域の人々との交流や自然との交わりの中で心を育む。	目的をもって、粘り強く汗を流して働くことで、労働を厭わない体力と強い気持ちを育てる。

学年の具体的な活動

知育面での具体的な学習

国語
・相手によって言葉を選んで話したり、挨拶、お礼など述べる。
・作業や活動を振り返って、まとめたり感想を書くことができる。

社会
・農業生産の仕組みを体験し、農業の工夫や苦労、農業の役目を理解する。
・歴史学習の中で農業技術の移り変わりを調べることができる。

算数
・畑の図形と面積の関係
・面積あたりの収穫量等の計算
・重さや量を体験する。

理科
・植物の発芽や成長に必要なこと。
・実や種のできかた。
・天気予報とファーム活動の関係について。

音楽
・各地の民謡には労働をテーマとしたものが多いことを知る。
・地元の作業の歌を調べる。

図工
・ファーム活動を題材とした絵画や版画等の作品作り。
・植物の葉や実を観察し、造形活動に生かすことができる。

特別活動
・上級生の自覚をもって協力する
・活動計画等の話し合いを進める
・次の活動の計画や次年度の活動の計画を積極的に進める。

徳育面での具体的な学習

上級生として、リーダーシップをとり、具体的に責任の大切さを育てる。

進んで汗して働く喜びを知り、率先して行動する態度を高める。

地域の人々の知恵や経験のすばらしさを感じ、尊敬の心を育てる。

地域の自然環境に目を向け、大切にしようとする心情を高める。

野菜や果樹、牛、花の世話と収穫を通して、生命のつながりや尊ぶ気持ちを高める。

先輩の言動を受け継ぎ、後輩に引き継いでいこうとする気持ちを育てる。

ファーム活動の様々な場面で、工夫し、改善しようとする発想で活動する。

ファーム活動を通して、働くことの大切さを理解する。

活動ごとに、より高い目標をあげて活動し、挫けないで活動する。

体育面での具体的な活動

くわを持ち耕作したり、スコップを使うことで、握力や背筋力を高める。

重いものを担ぐこと等や、長時間耕作することで、粘り強い体力や持久力を育てる。

草刈り鎌等の道具を、こつを覚えて上手に、長時間作業することで、巧緻性を育成する。

○　全体の指導計画

学年	活動内容	時期・単位 時間数	教育課程上の 位置付け	指導者
全校	ふれあいファーム活動 ○野菜　○畜産 ○果樹　○菊花	4月～11月 2単位 90分×15回 30単位時間	総合的な 学習の時間 生活科	地域の活動支援者
全校	嘉年っ子ファーム活動 ○玉ねぎ・いちご ○さつまいも ○そば	4月～2月 28単位時間	総合的な 学習の時間 生活科 清掃活動	地域の活動支援者 保護者 教職員
全校 6年 5年以下	ケナフの栽培 ○ケナフ・トロロアオイの栽培 ○卒業証書作り ○紙すき・絵手紙製作	5月～11月 6単位時間	総合的な 学習の時間 生活科 特別活動	保護者 教職員

２　活動の実際（地域農園活動を例として）

○　事前指導

米作り以外でしてみたい農業体験のアンケートの実施（昨年度）

その結果、活動分野を　①野菜　②果物　③菊　④阿東牛の４グループに決定する。グループ構成は、①異学年集団となること、②希望する活動グループに所属できること、を原則とした。１年生については、活動内容等を配慮し菊グループとする。

グループ	６年	５年	４年	３年	２年	１年	合計
野　菜	1	1	0	1	2	0	5
リンゴ	0	2	0	1	2	0	5
菊	1	0	1	0	0	3	5
牛	1	1	0	1	1	0	4

○　活動の展開

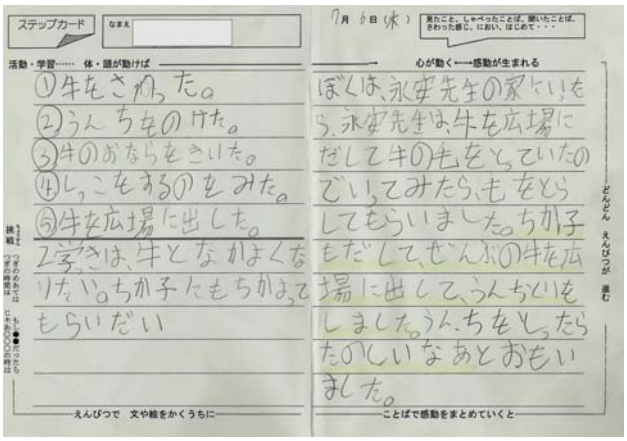
回	活動内容	活動の場	支援（教材・教具など）
第一回	対面式 ○グループ指導者の方との対面 ○学習計画作り→発表	学　校	全体の対面式の後、それぞれのグループで指導者を交えて、計画作り。
第二～七回（一学期）	①野菜：○たまねぎの収穫 ○トマトのわき芽かき ○トマトの出荷 ②果物：○リンゴ栽培のおもしろさ（お話） ○袋かけ ○猿退治の仕掛け ③菊：○さし芽 ○芽かき ○かぼちゃドーナッツ作り ④阿東牛：○牛のえさ作り ○牛小屋の掃除 ○子牛の世話・名前付け		
第八～十一回（二学期）	①野菜：○ビニールハウスの整理 ○豆の収穫 ○トマトの出荷 ②果物：○蜂蜜採り ○袋はずし ○リンゴの収穫・出荷 ③菊：○さし芽（来年用） ○菊花の出荷 ○かぼちゃドーナッツ作り ④阿東牛：○鼻ぐりつけ ○人工授精 ○わらぞうり作り ○牛小屋の掃除		
第十一～十四回	活動報告会に向けての ○　活動の記録の整理 ○　感謝の心や気持ちを伝える準備 ○　効果的な発表の仕方･方法を考える。	学　校	ステップカードでの自己の変容を意識させる。 体験をもとに自分の言葉で自分の気持ちを語る。
第十五回	活動報告会及び感謝の会 来年度に向けての簡単な計画案作り 地域指導者の反省会	学　校	地域指導者の招聘 感謝状・プレゼントの作成

３　体験活動の実施体制

○　学校としての推進体制　　校　長――教　頭―┬―研修職員会

○　学校支援委員会　　学校支援委員会

勤務先又は団体名	職　名
嘉年夢倶楽部	会　　長
嘉年小学校	校　　長
嘉年小学校	教　　頭
嘉年小学校	主　　事
ＰＴＡ生産部	部　　長
嘉年小学校	教　　諭



４　体験活動の評価の工夫と指導の改善

教師である私たちは、常に研究主題の仮説に立ち戻り、地域を活用しての体験学習にとどまらず、課題解決のプロセスと学習プロセスとを関係づけることが必要だと考えて研修を進めている。「今、子どもはどんな課題をさがしているか」「課題解明に向けての手順を検討しているか・問題を解決しようとしているか」「学習成果を生かそうとしているか」等、体験・感動・表現・挑戦するという意識が絶えず繰り返されているかどうかを検証し、その検証方法を探りだす努力が必要だと考えている。その過程を大切にするため、子どもたち一人ひとりの過程を知ることができるように、ステップカードを活用し、評価のより良いあり方を探っている。

５　活動の成果と課題

農村や農村文化が解体されようとしている今こそ、これらを支える一役を担うことも地域の学校の意義ある活動であると信じている。また、地域農園活動を通して、異年齢の方に対するあいさつや言葉づかい、働くことの楽しさやおもしろさ、嘉年に生きるための知恵や工夫等、多岐にわたる力が体得されつつある。何よりも、子どもたちが働くことの意味を考えたり、自然やその恵みを美しいと感じたりする豊かな心が身に付きはじめていることに成果を感じる。今後の課題として次の３つが考えられる。①ステップカードを使って評価することを試みているが、評価を有効に活用し、さらに豊かな活動になるよう評価の項目や基準等の研究を進める。②地域農園で培われた知恵や技能を、学校生活全体や学習全般に広げていく手だてとその方法について検討を進めていく。③活動が短期的に終わってしまうのではなく、その成果によって長期的に続く活動となるように活動内容の精選を図る。これらを、来年度以降の解決すべき課題と考えている。

今年の夏の日差しは、フィルターをも通さない、固く刺激的な色をしている。環境の変化は、長い間の経験によって**学んだ**体自身が感じている。樹木と土壌は、私たちにとって我が子そのもの、私の林檎に時折、子供たちが歓声と共に現れては、姿を消す。長い間の流れの中の**心地よい**雑音だと顔がほころぶ。『すべての生命は土が育み、その土は森が育て、水を浄化して、我々人間も生かされてきた。』赤い林檎に目を輝かせる小集団に、私はいつも**伝えてきた。**『穏やかな陽をうけ繁茂した葉は、林檎を甘くし、その落葉は木の養分となって循環する。』

次代を担う子供たちには、命の循環に感謝し、自然との共生を信条としてほしい。－可愛い子供たちと　赤い林檎は　そのシンボルであればよい－　　**ふれあいファームの指導者が寄稿**

《ＪＡ山口中央女性部嘉年支部発行「ひろば」》より